**第２学年３組　算数科学習指導案**

**1 題材名**　はこの形をしらべよう

**2 本時の学習指導**（2／3時）

　（1）目標

　　　○面をつなげて箱作りをする活動を通して、向かい合う面の形が同じであることや辺がぴったりと合わさることに気付くことができる。（数学的な考え方）

（2）展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習活動 | ○指導上の留意点 | 時間 |
| 1 前回の学習を振り返る。  2　前時に作成した、面を写し取った紙を使用して、箱を作るためにはどうすればいいか考える。  　C1　紙を切り取るとできます。  　C2　面同士をくっつけるとできます。  　C3　切り取って箱に貼り付けると出来ます。  切り取った面をつなぎ合わせて、はこを組みたてよう  3　面を切り取る。  4　面をつなぎあわせ、箱をつくる。  C1　同じ長さの辺同士をつなげます。  C2　辺同士をぴったりとくっつけます。  C3　同じ形は隣同士になりません。  C4 同じ形の面同士が向き合うように組み立てます。  C5　思いつきません。  6　考えた面のつなぎ方を発表する。  C1　このようにつなげました。  C2　いろいろなつなげ方があるんだね。  7　学習のまとめをする。  8次回の予告をする。 | ○箱の面は6つあることや、同じ形の面が2つずつ3組ある（正方形が2つあるときは同じ面が4つ、正方形が6つあるときには同じ面が6つ）ことを復習することで、スムーズに本時の内容に取り組めるようにする。  ○児童が写し取った面を使用して箱を作ることを具体的にイメージできるように、児童に箱を見せながら問いかける。  ○切る、つなげるなどの児童の発言を拾い、まず写し取った面を切り取る活動へつなげていく。  ○線に沿って真っすぐ切ること、曲がってしまうと、きれいな箱が出来ないことを確認する（はさみを使うときに気を付けることをまとめた紙を黒板に貼る）。  はこが作れるように、面のつなぎ方をかんがえよう  ○面を平面の状態で6枚全てを繋げてから、箱を作ることを伝える。  ○まず教師が手本を示し、箱が出来ない場合があることを伝えられるようにする（箱が出来ないつなぎ方を用意しておき、児童に見せる）。  ○机の上に面を並べてから、テープでつなげ箱が作れるかどうか、実際に組み立ててみるようにする。箱が出来上がらなかったら、もう一度テープを貼り直し、別の組み立て方を考えるように伝える。  ○児童が組み立てながら、気づいたことをノートに書くように指示する。  ○異なる長さの辺同士をつなげていたり、同じ形の面同士をつなげていたりする児童には、その部分を組み立ててみると、箱がぴったりと合わず隙間が空いてしまうところを見せ、どうすれば隙間なく箱を組み立てることが出来るのか尋ねる。  ○終わった児童は、周りの子とどのように面をつなげたのか共有するように伝える。  ○発表する児童は前に出て、どのようにつないだかと、気づいたことを話すように促す。  ○児童がつなぎ合わせた面の特徴（十字につなげてあるなど）を挙げ、児童が自分のつなぎ合わせたものと比較し相違点に気付くことが出来るようにする。  ○正方形を含む箱は特殊なので、教師があらかじめ用意をしておく。  ○箱を組み立てるために、同じ形が隣同士にならないようにつなげること（箱を組み立てたときに同じ形同士が向き合うようにつなげること）、辺がぴったりと重なるようにつなげることの2つが大切であることを、児童の発言をつかってまとめる。  ○次回は、辺や頂点の特徴について学習することを伝える。  ○つなぎ合わせた面や、切り取った紙を片づけるように声を掛ける。 | 2  3  15  15  5  5 |

**3 備考**　在籍児童数　35名

**4 板書計画**

1/23 98 切り取ったはこをつなぎわせて

　　 問　 はこを組立よう。　　　　　　　　　　　　＜児童がつなぎ合わせた面を貼る＞

はさみをつかうときに

　　　　　気をつけること など

　　　　　・線に合わせてまっすぐ切る

　　　　　・はさみは大きくつかう

気づいたこと

　　　　　・すき間がないようにくっつける　　　　　ま・へんがぴったりと重なるようにする

　　　　　・同じ形がとなり合わない　　　　　　　　　・同じ形がむき合うようにする

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・同じ形がとなり合わないようにする

　　　　まとめ

　　　　・同じ形はとなり合わない

　　　　・辺はぴったりとくっつける